

関係資料

新たな普通教育を主とする学科における教科・
科目の履修及び高等学校通信教育の質保証

令和2年12月22日

新たな学科で取り組む教育の特色（イメージ）

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ(第13回)資料より

総合的な探究の時間

- ・ スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを踏まえ、新たな学科において着目する社会的課題を踏まえた総合的な探究の時間の目標・内容を設定
- ・ 各学科において、目標を実現するにふさわしい探究課題を設定。「学際的な学びに重点的に取り組む学科」は複合的かつ分野横断的で、地域社会・国家・国際社会という枠組みも超えるようなボーダレスな課題に、「地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科」は地域社会の様々な課題と魅力に着目し、探究の過程を通して資質・能力を育成
- ・ 各教科・科目等や社会的課題に対応した学校設定教科・科目の特質に応じた「見方・考え方」を総合・統合しながら、「探究の見方・考え方」として働かせる

新たな学科の教育課題に対応した学校設定教科・科目

- ・ 「学際的な学びに重点的に取り組む学科」では、スクール・ミッションとスクール・ポリシーに基づき着目する社会的課題に関連した新たな学問領域における最新の学術的知見等に関する系統的な知識及び技能等に基づき、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させて、当該社会的課題の分析や解決に資する統合的な学問分野に関する「見方・考え方」を鍛えていく最先端の学びを実現
- ・ 「地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科」では、スクール・ミッションとスクール・ポリシーに基づき着目する地域社会の課題や魅力に関する知見を基にして、地域社会における課題や魅力の発見・課題解決に資する知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させて、地域社会の持続的な発展や価値の創出に資する学問分野に関する「見方・考え方」を鍛えていく実践的な学びを実現

スクール・ポリシーに基づくカリキュラム・マネジメントを通じた教育活動の展開

各教科・科目での学び

各学校のスクール・ミッション、スクール・ポリシー

WWL事業において研究開発中の学校設定教科・科目の一例

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ(第11回)資料より

【大阪教育大学附属高等学校平野校舎】

教科・科目名	年次	単位数	必修・選択	教科・科目の内容
データサイエンス基礎	1年	1単位	必修	データの見方・考え方を学び、物事を定量的に捉えることで、統計的なもの見方や考え方、量的関係をもとに推論する力等の資質・能力を養い、探究的に学ぶ上での考え方の基礎を習得
イノベティブシンキング	2年	1単位	必修	大学や研究機関で研究開発に取り組む研究者や、新たな価値やサービスを創造・提供する企業の経営者・実務家らを招聘し、具体的事例を講義やワークショップを通して学び、イノベティブな見方・考え方を習得
生命の倫理	1年	1単位	必修	生命や人体、医療保険制度や法律と倫理などを融合し、臓器移植や遺伝子操作などのテーマについて調査や議論(ディベート)を通して理解を深める
グローバル探究英語	2年	1単位	選択	先進的な英語授業として、大阪教育大学の英語教育の専門家や外国人留学生と協働し、「グローバル探究」と関係づいたプレゼンテーションやディベート、CLIL(他教科の内容を英語を用いて学習)等を導入、より高い英語運用力を育成
グローバル探究Ⅰ	1年	1単位	必修	開発した探究活動の指導方法・評価方法である「平野メソッド」(課題研究の学習ツール)を活用しながら、チームづくりや課題発見、データに基づく論理的思考、調査手法等の一連の研究手法を学び、SDGsをテーマとする研究活動に取り組む
グローバル探究Ⅱ	2年	2単位	必修	グローバルな社会課題についてSDGsの達成に向けた研究を行う。その際、文理両方の内容を総合して探究し、イノベティブな発想で解決する必要があることから、複数教科の高校教員や、大学・企業等の専門家の指導、並びに外国人講師を活用した英語による探究活動を行う。海外連携校との国際共同研究や、国内連携校との共同研究、大阪大学ユネスコ・チェアからの指導による研究にも取り組む。また、海外研修(タイ、カンボジア)を通して研究テーマの認識深化とデータ収集・調査を行う。ジグソー法や異学年間の学び合いによって多面的な思考力を身に付ける
グローバル探究Ⅲ	3年	1単位	必修	1, 2年での研究を個人論文にまとめるとともに、3年間の取組を振り返りながらポートフォリオを作成する。また、これまでの学びを踏まえながら自らのキャリアを設計し、それぞれに応じてさらに発展的な学びに取り組む
大学アドバンスセミナー	2年	1単位	選択	大阪大学「データサイエンス」「グローバルヘルス」「SEEDSプログラム」、大阪教育大学「教師にまっすぐ」のプログラムに参加

WWL事業において研究開発中の学校設定教科・科目の一例

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ(第11回)資料より

【広島大学附属福山中学校・高等学校】

教科名	科目名	年次	単位数	必修・選択	教科・科目の内容
研究への誘い	社会科学研究入門	1年	2単位	必修	学校設定教科「研究への誘い」は、課題研究を進める上での様々な科学的手法を、学校設定教科の位置付けで、発展的な課題を取り入れながら探究的に学ぶプログラム。 「社会科学研究入門」では、現在の経済活動を社会科学の見方、考え方を応用して読み解き、現代社会の特質や課題について認識を深め、現代社会の課題に対する解決策を提案
	自然科学研究入門	1年	2単位	必修	自然科学の問題解決過程をベースにした見方・考え方を扱い、誤差や有効数字など自然科学研究の方法を学ぶとともに、科学と社会のかかわりを考察
	情報科学研究入門	2年	2単位	必修	事象として自然科学的、社会的な内容を扱い、例えば地域の産業や人口に関するビックデータを参照・解析する中から課題を発見し、解決に向けた提案を実施
現代への視座	クリティカルシンキング	2年	1単位	必修	抽象語を文脈の中で理解、複数の立場から論じられている文章を読み解くなどを通して、多面的・総合的に考える能力や自分の考えを適切に表現する能力を育む
	グローバル・コミュニケーション	2年	1単位	必修	議論に必要な能力やコミュニケーション能力の育成を図り、対立する意見を持つ相手とも双方同意できる問題解決力や意思決定力を涵養する

令和2年度WWLコンソーシアム構築支援事業構想計画書より文部科学省において抜粋・作成

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型） において研究開発中の学校設定教科・科目の一例

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ(第11回)資料より

【高知県立大方高等学校】

教科・科目名	年次	単位数	必修・選択	教科・科目の内容
地域学入門	1年	2単位	選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域学とは 地域創造コースで学ぶ目的がわかる。地域学で何を学び、どんな力をつけるか理解する。 ・ 地域研究 フィールドワーク等を通して、地域の現状・歴史を知り、地域の課題やニーズを把握する。異年齢の人とコミュニケーションを取り、聴くことや質問することなどのコミュニケーション力を向上する。 ・ 防災学習1（防災上の現状把握と課題発見） 町行政・地区・学校の防災計画の内容を確認し課題を発見する。防災施設等を訪問し災害に対する地域の備えを確認する。地域学の取組を行事等の中で全生徒に還元し、総合的な探究の時間における課題解決の取組の中で、防災という視点を意識できるようにする。
地域学Ⅰ	2年	2単位	選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題発見 地域学入門で研究・学習したことを整理し活用する。 ・ 防災学習2（防災上の課題解決策の検討） 災害時に必要なことは何か気づき、行動する力を身につける。高校生らしい発想で地域貢献策を考える。これまで収集した情報等を見直し、個人で課題を明確化しグループで解決策について検討する。 ・ 企画から実行へ 試行錯誤を繰り返すことで、問題解決力を身につける。行政・地域・福祉施設等への提案と協議を通して、コミュニケーション能力や交渉力を身につけ、具体的な解決策につなげる。 ・ 報告および発表 プレゼンテーション能力を身につける。
地域学Ⅱ	3年	4単位	選択	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現する 前年度に提案した解決策の見直しや再提案、条件を変えての実施など、より効果的な策として練りあげて町や地域に提言する。 ・ 地域創造コースのまとめ 3年間で振り返り、それまで学習したことを、言語化し、深化する。防災意識を地域内外に広げるための戦略を考え、町の観光戦略とタイアップし、防災について学ぶ学習ツアーなどの企画を行い提案する。

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書より文部科学省において抜粋・作成

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型） において研究開発中の学校設定教科・科目の一例

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ(第11回)資料より

【山梨県立甲府第一高等学校】

教科名	科目名	年次	単位数	必修・選択	教科・科目の内容
探究	Advanced Practical English	2年	4単位	必修（探究科）	国内外の様々な文化・歴史・言語・自然・科学等の分野、または社会問題・社会課題や環境問題に対しグローバルな視点を持ち、英語を聞くこと・読むことの受動的な活動と、話すこと・書くことの能動的な活動を通じて教科の枠を超えて社会科学的・自然科学的に考察し課題解決型の学習に繋げていく。また、授業内で養い身につけた英語4技能のスキルを、グローバル探究で実施される校内外での発表会やイベント、海外研修旅行でのプレゼンテーションに役立てる。また、聴講者からの英語による質疑に対し、適切に応答できる資質を養成する
	グローバル公共	2年	1単位	必修（探究科）	「公共」の内容を先取りし、探究活動において公共の考え方を探究活動に落とし込みながら、よりより社会の実現を視野に、主体的に考え課題解決のための深い学びの実現を目指す。また、「公共」の指導方法の開発を含めた研究を行う
	グローバル探究Ⅰ	1年	2単位	必修（探究科）	探究活動の前提として、その手法を学ぶために、農業をテーマとして取り組む。机上の空論にならないように農業実習を行ったり、AgriTechの視点から考えたりする活動を通して、山梨と関わる様々な課題を連携高校、地域の小中学校とも課題を共有し、実地調査・協働研究等で連携を深め、課題発見力、論理的思考力の向上を目指す
	グローバル探究Ⅱ	2年	1単位	必修（探究科）	設定した課題の再検討を行い、山梨の地域や社会の新たな課題をSDGsの視点で設定する。コンソーシアムと協働して課題研究を行い、海外の研修先での提案活動や、各種コンテストへの参加により発信力、コミュニケーション能力を高める
	グローバル探究Ⅲ	3年	1単位	必修（探究科）	これまで身につけたスキルを使って研究成果を、自治体や企業等に提案。報告書（論文）としてまとめ、連携校間で共有できるようデータベース化し、閲覧・活用できるようにする

WWL事業及び地域との協働による高等学校教育改革推進事業において 研究開発中の学校設定教科・科目の状況（令和2年度指定校）

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ(第11回)資料より

1. WWLコンソーシアム構築支援事業

学校	必修科目としての開設単位数	選択科目としての開設単位数
A校	2単位	0単位
B校	6単位	0単位
C校	25単位	45単位
D校	1単位	4単位
E校	7単位	2単位
F校	1単位	0単位
G校	8単位	0単位
H校	6単位	6単位
I校	12単位	0単位
J校	1単位	5単位
K校	5単位	0単位
L校	6単位	0単位

2. 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

学校	必修科目としての開設単位数	選択科目としての開設単位数
A校	1単位	6単位
B校	3単位	0単位
C校	2単位	3単位
D校	2単位	0単位
E校	2単位	0単位
F校	3単位	0単位
G校	0単位	4単位
H校	4単位	2単位
I校	2単位	8単位
J校	0単位	8単位
K校	2単位	0単位

3. 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）

学校	必修科目としての開設単位数	選択科目としての開設単位数
L校	2単位	0単位
M校	10単位	0単位
N校	3単位	0単位
O校	11単位	0単位
P校	8単位	0単位
Q校	2単位	0単位
R校	6単位	2単位
S校	8単位	0単位

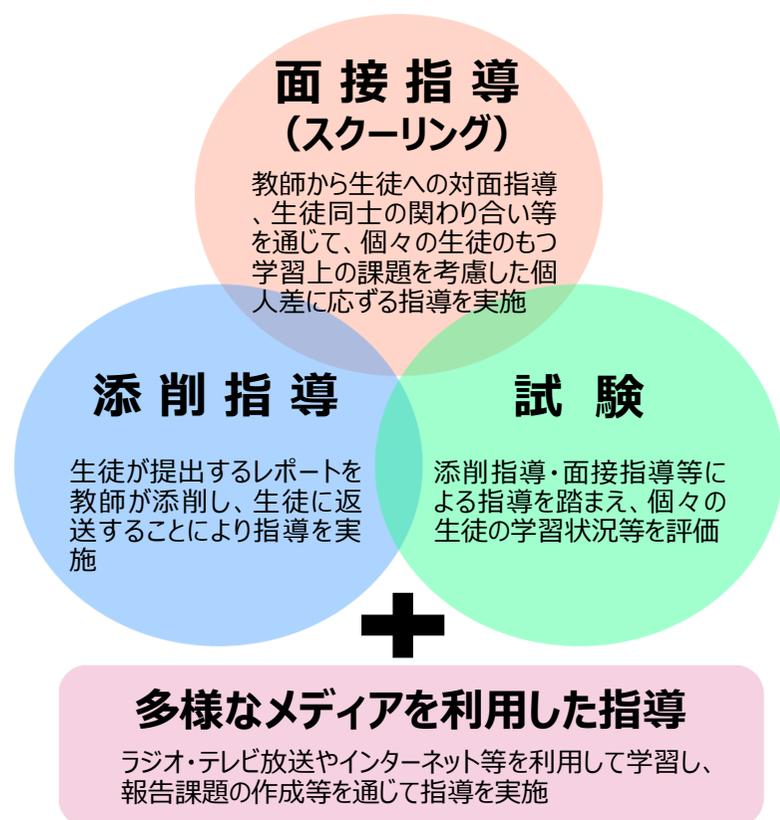
※令和2年度WWLコンソーシアム構築支援事業構想計画書及び令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調査より文部科学省において作成。

※カリキュラム開発拠点校、事業指定校及び事業特例校の状況（指定校内において複数のコースが存在し、コースによって対象教科・科目が異なる場合は、開設教科・科目が多いコースにより単位数を算定）

高等学校通信制課程の概要

- **高等学校通信制課程は、**勤労青年に高等学校教育の機会を提供するものとして戦後に制度化され、教室授業を中心とする全日制課程・定時制課程とは異なり、通信手段を主体とし、**生徒が自宅等で個別に自学自習することとして、添削指導・面接指導・試験の方法により教育を実施**している。また、これらに加えて**多様なメディアを利用した指導**を行うことができる。
- 近年では、学習時間や時期、方法等を自ら選択して**自分のペースで学ぶことができる通信教育ならではの特長を生かして、**勤労青年のみならず、**スタートラインも目指すゴールも異なる多様な生徒に対して教育機会を提供**している。

通信教育の方法



教育課程の特例 (※ 高等学校学習指導要領第1章第2款5)

- ・ 各教科・科目の添削指導の回数、面接指導の単位時間の標準は、全日制課程・定時制課程とは異なり、下表のとおり定められている。
- ・ 多様なメディアを利用して行う学習を計画的かつ継続的に取り入れて指導を行った場合には、面接指導等の時間数のうち10分の6以内の時間数を免除することができる(生徒の実態等を考慮して特に必要がある場合は、複数のメディアを利用することにより、合わせて10分の8以内の時間数を免除することができる)。

各教科・科目等	添削指導(回)	面接指導(単位時間)
国語、地理歴史、公民及び数学に属する科目	3	1
理科に属する科目	3	4
保健体育に属する科目のうち「体育」	1	5
保健体育に属する科目のうち「保健」	3	1
芸術及び外国語に属する科目	3	4
家庭及び情報に属する科目並びに専門教科・科目	各教科・科目の必要に応じて2～3	各教科・科目の必要に応じて2～8

(※) 学校設定教科に関する科目のうち専門教科・科目以外のもの、理数に属する科目及び総合的な探究の時間の添削指導の回数及び面接指導の単位時間数は、1単位につき、それぞれ1回以上及び1単位時間以上確保した上で、各学校で設定。

(※) 特別活動は、ホームルーム活動を含めて、卒業までに30単位時間以上指導。